

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第5回中央地区まちづくり会議				
事務局 (担当課)		中央区役所 地域振興課 本庁地域まちづくりセンター 電話042-707-7049(直通)				
開催日時		平成30年9月18日(火) 18時30分~21時				
開催場所		中央公民館コミュニティ室				
出席者	委員	19人(別紙のとおり)				
	その他	7人(企画政策課1人、都市計画課1人、建築・住まい政策課3人、中央区役所区政策課2人)				
	事務局	2人(本庁地域まちづくりセンター)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 事務連絡 (1)『市役所前さくら通り地区』の相模原市景観計画における 景観形成重点地区指定に向けた取組みについて (2)区版広報に関するアンケート調査の実施について 3 議 題 (1)中央地区まちづくり懇談会テーマの選定について (2)次期総合計画及び都市計画マスタープラン策定に向けた 地区のまちづくりに係る意見交換について (3)その他 4 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(〇〇 は委員の発言、 〇〇 は事務局の発言、 〇〇 は担当課の発言)

1 開会

牛尾会長あいさつ

2 事務連絡

(1) 『市役所前さくら通り地区』の相模原市景観計画における景観形成重点地区指定に向けた取組みについて【建築・住まい政策課】

建築・住まい政策課から、市役所前さくら通り地区の景観形成重点地区指定に向けたこれまでの経過と今後の取組みについて、資料に沿って説明を行った。

主な意見・質疑

景観形成重点地区の指定は、市内で初の取組みという理解でよいか。

景観計画には複数の候補地を掲げているが、市役所前さくら通り地区は他の候補地に先駆けて取組みを進めていくことになる。

景観形成重点地区指定の候補地を市役所前さくら通り地区としているが、道路のみの指定となるのか。周辺のエリアは含まれないのか。

道路自体は景観重要公共施設として、桜並木は景観重要樹木として既に指定されている。今回候補地としているのは、道路に面した部分を含むエリアである。

当該エリアの桜並木は、樹木間隔の狭さや腐朽の進行など、景観の維持に課題を抱えていると感じている。景観形成重点地区の指定に当たって、桜並木の適正な管理に関する事項を盛り込めないか。

景観重要樹木の指定に伴って、適切な管理が義務付けられている。

景観という言葉に対するイメージは人それぞれだろう。私は古い町並みや自然との調和といったイメージを持って説明を聞いていたので、市役所前さくら通りが景観形成重点地区の指定によってどのように変わっていくのか想像できなかった。現状変更に対する規制を行うのか、地域の発展のために積極的な改変を促すのか、具体的な方向性がわかるようにしてもらえるとありがたい。

当該エリアの景観形成に関する方針は、今後協議会で決定していくことになるが、その際には、まち歩きや他自治体の事例勉強などを通して、認識にズレが生じないように議論を進める。最終的に、賑わいのある、シティセールスにも繋げられるようなものにしたいと思っている。

地域への情報提供についても、わかりやすい表現でお願いしたい。

(2) 区版広報に関するアンケート調査の実施について【中央区役所区政策課】

中央区役所区政策課から、アンケート調査の実施に係る説明と協力依頼を行った。

主な意見・質疑

アンケートの設問は、中間選択傾向、黙従傾向に配慮したものとしてほしい。

次回アンケートを実施する際に検討したい。

このようなアンケートを行うのは、はじめてか。

市民を対象にした類似のアンケートは定期的実施している。また、まちづくり会議の委員を対象にしたものとしては、平成27年度に区行政全般に関するアンケートを行っており、その中で広報等についても伺っている。

無記名での回答でよいのか。

問題ない。添付の封筒に入れ、公民館等にお立ち寄りの際にご提出いただくか、次回のまちづくり会議でご提出いただきたい。

3 議 題

(1) 中央地区まちづくり懇談会テーマの選定について

平成30年度中央地区まちづくり懇談会について、取り扱うテーマの選定と発表予定者の選任を行った。

主な意見・質疑

2つ目のテーマでは、継続事業に対して事業趣旨に合致した補助制度の創設を求めているが、その財源として地域活性化事業交付金の地区割当額を減らして継続事業に充てるというのでは、新規事業の参入を阻害することになる。これは、地域活性化事業交付金の趣旨に反すると考える。

区全体ではそれなりの執行残が出ているはずであり、これを財源として活用できないかとも考えているが、何より財源確保が原因で事業趣旨に合致した補助制度の創設が頓挫しては困ると考えている。あくまで継続事業に対して、しかるべき補助制度を新たに設けてもらいたいという思いのテーマである。

地域活性化事業交付金は、地域で新しい取り組みを計画的に立ち上げていくために設けられたものと理解している。若年層の地域参加に力を入れている地区などもあり、中央地区としても注力すべき課題を整理し、計画的な事業化、担い手を増やす取り組みを行う必要がある。継続事業に財源を割り当てることで、そういった、あるべき広がりや妨げることにならないか、地域活性化事業交付金制度全体を縮小するきっかけにならないか、不安視している。よって、制度創設の部分を前面に出すべきと考える。

もみの木コンサートを実施する側としても、地域活性化事業交付金ではなく、事業に合った補助制度が創設されるに越したことはないと思っている。

新規事業を優先する交付金制度ではあるが、現状でもまちづくり会議の意見を踏

まえ、例外的取扱いにより4年目以降の交付を受けている事業はある。地域活性化事業交付金の地区割当額を確保することで、制度創設の実現が遠のくのは望ましくない。

地域活性化事業交付金制度の中で、交付年限や交付率の制限を取り払い、継続事業に充てられるようにするのもいいと思っている。

現在の地域活性化事業交付金制度では、継続事業に対して、市が行うべき評価を行っていないように思う。事業を評価し、重要なもの、継続が必要なものは、補助制度を新設するなり、施策に繋げるなりするのは当然のこと。市が事業を評価したくないので、交付年限を設けたのではないかと感じている。

そもそも、新たな事業の立ち上げの為にできた交付金制度と理解しており、市が事業を評価していないというのとは別だろう。いずれにしても、継続が必要な事業に対する新たな補助制度を設けてもらいたいという部分に集中すべきで、地域活性化事業交付金の財源をそこに充てるというのは、テーマの段階で記載すべきではないと考える。

制度新設は、市の財政状況から見て容易ではないだろう。直近のことを考えると、現行の地域活性化事業交付金を継続事業に使いやすくなるような運用変更を求める必要があるように思う。

継続事業の評価を行い、内容がよければ補助を継続できる制度が望ましい。だが、制度新設までに時間がかかるのであれば、現行制度の運用による工夫も求めたい。懇談会当日は、このような内容を意見することになると思うが、テーマとしてどこまで記載すべきか悩ましい。

3年を超えても交付を受けたいから、抜け道を作ってほしいと言っているように受取られたくない。立ち上げを終えた事業でも、継続が必要なものはその内容を評価し、しかるべき補助制度を設けて欲しいというのが本質である。

3年を超える継続事業が多数ある現状を市としてどのように捉えているのか。地域活性化事業のあり方の部分を確認する文章を入れてもらいたい。

議論が立ち戻るが、現行の交付金制度の要綱において、仮に交付年限や補助率の制限を全て取り払った場合、中央地区の抱えている課題は解決するのか。

現在行っている事業の直面している財源問題は解決されるだろう。しかし、新規の参入を制限することになり、交付金の趣旨と合致しないように思う。まちづくり会議に予算の采配全てを任せるとすれば、新規事業と継続事業のバランスも取れるのではないか。

市の予算の執行に関することをまちづくり会議に全て委ねるとするのは現実的ではない。

現行の交付金制度で、交付決定をまちづくり会議に委ねているのではないのか。区長が交付決定を行うに当たって、まちづくり会議から意見を聴取しているに止まる。交付決定を行っているのは、あくまで区長である。

結果

まちづくり懇談会当日のテーマ提案は、テーマ案1を木口委員、テーマ案2を岡野委員、鳥海委員及び井之上委員が担当する。各テーマ案は、今回のまちづくり会議の意見を反映し、発表者及び役員で修正する。確定したテーマシートは、次回まちづくり会議にて報告する。

(2) 次期総合計画及び都市計画マスタープラン策定に向けた地区のまちづくりに係る意見交換について【企画政策課、都市計画課、中央区役所区政策課】

前回のまちづくり会議において持ち帰り確認することとなっていた、矢部駅前への交番設置要望に関する進捗を中央区役所区政策課担当者から報告した後、前回までのグループワーク結果をまとめる形で作成した「次期総合計画・都市計画マスタープラン中央地区まちづくり会議報告書」の案を企画政策課担当者から説明し、意見を聴取した。

主な意見・質疑

10年前の総合計画策定に際しては、提言書という形でよくまとまった文書を作成しているが、今回作成する報告書はこれに代わるものになるのか。

お見込みの通り。

矢部駅南口側への駐輪場設置に関する記載の中で、放置自転車が多いとあるが、そのような事実は無いと認識している。

矢部駅の南口側に十分な駐輪場所が無いのは事実であり、駐輪場の整備されている北口側に移動するにも、高齢者を中心に地下道が使いにくいという現状がある。南口側への駐輪場設置を要望することに異論は無いだろう。

放置自転車が多いという文言を取り除き、文章を整える。

放置自転車が少ないのは、人的対応を継続しているためであり、駐輪場整備を行えば、それらも不要になるかもしれない。

住環境・生活環境の分野で、地域外の人という表現があるが、何を意味していて、どこに係っているのか読み取りにくい。

地域外の人という表現と文章の順序を修正する。

ごみ集積場所の管理が地域任せでずさんだと感じている。市としてもごみ集積場所の適正な管理をしてもらいたいと思っており、そういった文面を報告書に盛り込んで欲しい。また、ごみ袋の有料化という文言は、中央地区の報告書として削除が妥当と考える。

意見を反映し、修正する。

矢部駅周辺は、ごみの戸別収集を行っている。これは他地域に先駆けての試験的な取り組みと認識しているが、本件と関わるのではないか。

報告書に盛り込む必要はないだろう。

健康・医療・福祉の分野の対応方策の中に、民生委員やスポーツ推進委員などの

地域活動へ高齢者を積極的に活用すること、とある。シニア層の積極参加を促すという方針に異論は無いが、スポーツ推進委員の世代交代を意識して活動してきた経験から言わせてもらえば、違和感を覚える文面である。

民生委員も同様である。また、活用という文言も改めてもらいたい。

民生委員やスポーツ推進委員という具体的な例示は避け、活用という文言は、参加を促すといった表現に改める。

市道市役所前通を指す表現を統一してもらいたい。

正式名称で統一する。

報告書の雛形にあった生涯学習・文化・スポーツという分野が無くなったのはなぜか。

複数の分野にまたがる内容を整理した結果であり、必ずしも雛形の分野と併せる必要はない。

当該分野に関わる意見が無かったわけではない。再掲という形でもかまわないので、当該分野を報告書に掲載して欲しい。

該当する意見を再掲する形で対応する。

公民館との連携に関する内容を追加で盛り込んでもらいたい。

生涯学習・文化・スポーツの分野に追加する。

子ども達・若者に地域を意識してもらえるような取り組みの必要性、特に公教育の中で、地域との連携を促すような内容を追加して欲しい。

該当する分野に追加する。

教育・子育ての分野の対応方策に記載のある、“おせっかい”という言い回しは適切ではないだろう。また、駐輪場の自転車の並びを整えるという例示も、不要ではないだろうか。

グループワークでの議論は、大人が見本になってマナーを教えるという意味合いだったと記憶している。

正確に伝わるよう修正する。

報告書に反映する必要があるかどうかはわからないが、自転車事故防止に向け、運転マナー向上のための取り組みを市役所総出で行う必要があると考える。また、児童・生徒への交通安全教育を徹底して行ってもらいたい。

関連項目に付加する形で報告書に盛り込む。

産業・観光・商店街の分野で、商店街の衰退と大型スーパー等が少ないという内容が課題として併記されていることに違和感を覚える。

大型スーパーが少ないということではなく、高齢者をはじめとした住民が利用できる交通手段の整備が不十分なことが課題なのではないか。

大型スーパーの不足については、課題と現状、対応方策ともに削除する。

博物館プラネタリウムの料金設定についての記述があるが、現状でも十分に廉価な設定がなされているように思う。

博物館の両サイドの道路に花苗を植えるという記載があるが、自然観察なども行っている施設の周辺環境を、園芸植物などで改変するのは望ましくないだろう。

ふさわしい環境に整えるといった表現が良いのではないだろうか。

重点分野のうち1つは、都市計画の分野を選定してもらいたい。市役所本庁舎の移転等が議論に上がっており、地区全体に関わる重要な項目である。

当該分野のうち、特に重点的に取り組むべき方策としては、市役所周辺に関する2項目を推したい。

重点分野のもう1つとして、安全・安心を取り上げるのはどうか。

安全・安心は重要な項目だが、あえて選ぶのであれば、地域のあらゆる課題に関わる分野として、地域コミュニティを重点分野に選びたい。

地域コミュニティの分野で、特に重点的に取り組むべき方策は、自治会加入に関する項目が筆頭だろう。また、安全・安心分野もカバーする意味で、地域コミュニティと連携した防犯・交通安全対策を追加し、重点項目とするのが良いだろう。報告書についてではないが、進捗の報告をいただいた矢部駅前への交番設置について、意見がある。ただ、要望書を出しただけでは、市の対応として不十分ではないか。地域の熱意を酌んで、副市長や担当の局長が県警に足しげく通うような対応をしてほしいと思っている。担当課に持ち帰ってもらいたい。

(3) その他

- ・佐藤委員から、富士見小学校サマークリーンデーへの協力の御礼と開催予定の運動会の案内を行った。

4 閉会

以上

第5回中央地区まちづくり会議(9月18日開催)出席委員名簿

	氏名	役職	選出団体名等	出欠
1	牛尾 良一	会長	中央地区自治会連合会	出席
2	鳥海 千秋		中央地区自治会連合会	出席
3	中川 清一		中央地区自治会連合会	出席
4	徳田 文夫	副会長	中央地区社会福祉協議会	出席
5	鎌倉 轟		中央地区民生委員児童委員協議会	出席
6	小金澤 近雄		中央地区民生委員児童委員協議会	欠席
7	篠崎 久誉		中央地区民生委員児童委員協議会	出席
8	今井 千春		中央地区老人クラブ連合会	欠席
9	岡野 博		中央地区青少年健全育成協議会	出席
10	松田 正則		中央地区健康づくり普及員協議会	欠席
11	島村 春男		中央地区防犯協会	出席
12	山田 章		交通安全協会	出席
13	岩下 孝二		中央地区連合自主防災隊	出席
14	中西 智子		中央小学校PTA	欠席
15	力石 武史		弥栄小学校PTA	出席
16	佐藤 匠		富士見小学校PTA	出席
17	岡本 和茂	副会長	中央公民館	出席
18	浦上 裕史		中央地区内商店街	欠席
19	澤畔 正裕		中央高齢者支援センター	出席
20	代田 昭		地域有識者	欠席
21	布施 初子		公募委員	出席
22	倉澤 良明		公募委員	出席
23	木口 榮		公募委員	出席
24	小澤 隆宏		公募委員	出席
25	井之上 久		公募委員	出席